

パブリックコメントの結果について

募集期間：平成28年3月14日～平成28年3月28日

応募件数：2件

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
1	Eメール	市内に住 所がある 人	首都圏のアクティブシニアを誘致する場合の支援内容が不十分。県内の銀行から住み替えのため弘前市内に住居を新築、改築するための住宅ローンを借りる場合、例えば最初の5年間の金利負担を市の財政より上限を決め補助金で支援したらどうか。	首都圏からの移住を希望するアクティブシニアの住み替え支援として、購入費用の一部を補助する空き家・空き地利活用事業費補助金の活用を想定しております。その他の支援内容につきましては、今後具体的な取り組みを進めていくうえで、検討していきたいと考えております。

2	Eメール	市内に住 所がある 人	<p>まずは地域住民が地域づくりを担う団体、事業者、行政等と共働き、広く市内で活躍することを通じて様々な地域課題の解決に寄与する仕組みの構築を全市的に進めることが大事ではないでしょうか？それが若者にも魅力的なものであれば、若者離れの軽減にもなります。その実績の上で（若しくは同時に）他県からアクティブシニアを誘致し、「弘前版生涯活躍のまち構想」を実現した方が現実的な気がします。</p> <p>地元民が出来ないこと若しくはしてないことを、他県から誘致のアクティブシニア（元は地域住民）に期待することには、違和感があります。</p>	<p>本構想（案）において、誘致するアクティブシニアが、自分の持つ様々なスキルやノウハウを活かし、地域住民、地域づくりを担う団体、事業者、行政等と協働しながら、地域課題の解決に向けて活躍できることが重要であるとしております。</p> <p>その活躍の場を創出するためにも、貴見のとおり地域での連携した課題解決に向けての仕組みづくりは必要であると考えておりますので、今後具体的な取り組みを進めていくうえで、検討していきたいと考えております。</p>
			<p>誘致するアクティブシニアの皆さんは各分野において特別な知識や技術を習得したスペシャリストの様な感じを受けます。</p> <p>また、移住者の皆さんは経済的にも時間的にも余裕があるように見え、であればこそ弘前の地域課題の解決に貢献できるが、果たしてそうでしょうか？都市圏で第一の人生を終えられ、第二の人生で余暇や趣味を楽しみながら津軽でノンビリ生活を希望する方々であれば、この“構想（素案）”の“主人公”であり得る気がします。</p> <p>津軽出身者のUJターンをターゲットにするなら、我々、地元住民と変わらない方がほとんどであり、生活基盤を安定させる事が先決で、弘前の地域課題の解決貢献はその先の話ではないでしょうか？</p>	<p>本構想（案）において、誘致する主なターゲットとしては、津軽地域出身のUJターン者の中でも、就業意欲や社会参加意欲が高く、様々なスキルやノウハウを地域課題の解決に活かしたいという意欲あるアクティブシニアを想定してはおりますが、貴見のとおり、様々な地域課題の解決に貢献するためには、生活基盤の安定についても重要であると考えております。今後具体的な取り組みを進めていくうえで、就労機会の提供や日常の健康管理など、安心して住み続けることができるような体制づくりについて、検討していきたいと考えております。</p>